

Fukuoka University MEDICAL SCIENCE NEWS

No. 84

編集・発行
福岡大学医学会
福岡大学医学部内

福岡大学医学会ニュース

医学部教務委員 就任のご挨拶

教務委員(内分泌・糖尿病内科学 教授)

川浪 大治



2021年12月1日付で高松泰教授の後任として医学部教務委員を拝命致しました。重責に身の引き締まる思いです。2年間、学生部委員を務めて参りましたが、引き続き教学関係の仕事に従事できることはこの身の幸せであると感謝しております。教務委員の抱負とは言えませんが、私が教育に関して日々考えていることを述べさせていただきます。

アウトカム基盤型教育の考え方は、浸透してきたように思いますが、その裾野を広げ、全教職員で共有していくことが大切だと考えます。教育が最も大変で最も感謝されない仕事になってはいけません。現場の先生方は学生教育に意欲を持って臨んでくれています。その熱意や努力を評価するシステムの構築が重要だと考えています。助教・講師クラスを対象にした参加型のFD(Faculty Development)を充実させ、学生教育という共通項で診療科横断的な交流を深めることがクリニカルクラークシップの発展につながるだろうと考えています。そして、このFD参加回数を教員の昇格要件とすることが望ましいと思います。FDを繰り返すことで、福岡大学医学部の教育理念を若手の先生方に根付かせ、次の世代を担う人材の育成につながると思っています。

また、医学教育をサポートして下さっている職員の方々への感謝の念を忘れてはならないと考えます。福岡大学に赴任して率直に感じたことは事務課そして教育技術職員の方々の献身的な姿勢です。これは福岡大学が誇るべき文化ではないか

と思っていますが、職員数が絶対的に少なく、個々の負担が大きいのと感じています。この充足は重要な課題です。医学部だけ特別扱いはできないと批判を受けるようですが、医学部には国民の健康を守る医師を養成する使命があります。医学教育に注ぐべき予算や人材が惜まれることがあってはならず、福岡大学全体としてこの問題を考えて頂きたいと思います。この理解を得るために諸先生方が多くの努力を払われてきたように、私も引き続き訴えていきたいと思っています。

このようなことを申し上げることをお許し頂きたいのですが、私は福岡大学医学部の将来に強い危機感を持っています。生き残りをかけて、教務改革を押し進めていかなければなりません。学生諸君には、自分に限界を作らず、己の可能性にすべてをかけて欲しいと願っています。卒業生が、福岡大学に魅力を感じ、その発展に貢献したいと思えるような環境作りが急務です。根っこのない切り花はすぐに枯れてしまいます。根っここそが教育であると私は信じています。教務委員の仕事は、私自身が医師になった過程を振り返る作業であり、福岡大学医学部へ恩返しをする時がきたのだと思っています。全ての卒業生が福岡大学で医学教育を受けたことを誇りとし、活躍できるよう、微力の限りを尽くしたいと存じます。容易ならざることばかりで厳しい現実との戦いになると覚悟していますが、理想を忘れずに精進して参ります。教職員皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

入学センター委員に就任して

医学部入学センター委員（衛生・公衆衛生学 教授） 有馬 久富

令和元年12月から2年間医学部入学センター委員を務めさせていただきましたが、令和3年12月から引き続き医学部入学センター委員を務めさせていただくこととなりました。

医学部医学科入試では、平成30年に文部科学省から高校卒業後の年数により調査書の評定平均値を一時的に点数化して差異をつけ評価していることは不適切である可能性が高いと指摘されました。第三者を含む医学部医学科入試制度調査委員会による検証結果をもとに、平成31年度の入学者選抜から①属性による一律な差異を取り除く、②評定平均値の点数化を廃止する、③面接試験では一人ひとりの人物評価を丁寧に選考するなどの改善をおこないました。その結果、文部科学省より入学者選抜において不適切な事案はなく改善されたと評価されました。現在も、学内外の委員で構成する医学科入試検討委員会を毎年開催し、性別や現役・浪人など属性による一律的な取り扱いの差異が認められないことを確認しています。現在、福岡大学医学部医学科で適正な入学者選抜が行われていることは間違いありません。

新たな取り組みとしては、令和3年度の入学者選抜から、面接試験においてより公平性・客観性・透明性の高い評価をおこな

うために、ルーブリック評価表を導入しました。令和4年度の入学者選抜では、先生方のご意見を反映した分かりやすいルーブリック評価表に改定いたしましたので、より適切な評価がおこなわれるのではないかと期待します。また、福岡大学入学センターと連携して医学科独自のIRを毎年おこなっています。入学者選抜における個別学力検査および面接の評価と入学後の態度・評価との関連などを検討しています。検討結果は、教授会、医学教育ワークショップにおいて先生方と共有し、入学者選抜の改善に役立てたいと考えています。

今後も、医学部独自のIRから得られた結果をもとに、教授会、医学教育ワークショップなどにおいてアドミッションポリシーに合致する入試選抜を行うための改善に向けた検討をおこなってゆくとともに、変更点についてはPDCAサイクルをもちいた継続的な見直しをおこなってゆきたいと思っております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



福岡大学医学会第85回例会

■日時/令和4年2月16日(水) 18:00～19:10
■場所/医学部 RI 講義棟 3F 大講堂

- 1) **開会の辞** 集会幹事 平井 郁仁
- 2) **会長挨拶** 医学部長 小玉 正太
- 3) **新任講演** (講演25分、質疑応答5分)
講演者…羽賀 宣博(腎泌尿器外科学 教授) 座長…小玉 正太
「泌尿器科疾患と排尿障害 —新たなエビデンス—」
- 4) **福岡大学医学紀要 第48巻優秀論文賞授与式**
👑 蒲池 祐紀 (整形外科) 👑 小阪 英智 (整形外科) 👑 王 子堯 (病理学)
医学生業績報告書「Journal of Achievement for Medical Students; JAMeS」優秀賞授与式
👑 渡辺 起子 (M3) 👑 佐田 正太郎 (M3)
「Diffuse large B-cell lymphoma由来細胞株におけるCD79B遺伝子とMYD88遺伝子の変異検出とその臨床的意義 JAMeS 4(1): 17-24, 2021」
- 5) **受賞論文の要旨講演** (講演10分、質疑応答含む)
講演者…蒲池 祐紀 座長…山本 卓明
「Radial T2 Mapping Magnetic Resonance Imaging Evaluation of Acetabular Cartilage for Hip Dysplasia」
講演者…小阪 英智 座長…山本 卓明
「Influence of Femoral and Tibial Deformities on Postoperative Alignment after Opening Wedge High Tibial Osteotomy」
講演者…王 子堯 座長…鍋島 一樹
「The Clinicopathological Features and Prognosis of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma with Concurrent Carcinoma *in Situ*」
- 6) **閉会の辞** 集会幹事 平井 郁仁



講演された先生方と(左から、小玉会長、鍋島先生、王先生、小阪先生、蒲池先生、山本先生、平井先生)

新風

new phase

令和3年10月1日付けで本学へ赴任、昇格された方に自己紹介をしていただきました。



形成外科学
教授
高木 誠司

令和3年10月1日付けで福岡大学医学部形成外科学講座の主任教授を拝命いたしました。私は大阪生まれ、大阪育ち。平成7年に大阪大学を卒業後は、そのまま母校の形成外科教室に入局しました。その後、関連病院勤務や海外留学を経まして、縁あって平成21年に福岡大学に迎え入れて頂き、そこからの10余年、皆さんの温かいご支援のもと、臨床・研究・教育に従事してまいりました。臨床面においては、形成外科は他の診療科と協同させて頂いてこそその存在意義を発揮できる科だと心得ております。私自身の専門は頭蓋顎顔面外科や乳房再建や小児形成外科であります。いずれも他科の先生方の御協力なくしては決して成立しない領域です。引き続きに良好な連携を取らせて頂きながら、福岡大学病院のブランド力向上の一端を担ってまいりたいと考えております。あわせて大学の使命である研究や教育に対してもなお一層に注力し、また新たな気持ちで福岡大学医学部のために尽くしてまいります所存です。今後とも皆様のお力添えを何卒よろしくお願い致します。



臓器移植医療センター
教授
白石 武史

令和3年10月1日付けで臓器移植医療センター長・教授を拝命いたしました。福岡大学病院は脳死・生体肺移植、生体・献腎移植、角膜移植、加えて臍島移植の指定施設です。皆様は、私たちの病院がこの様な移植医療の役割を担っている意義をご存じでしょうか？移植医療は手術が中心ではありますが、優れた外科技術のみで成し遂げられる医療ではありません。最終的に治療成功を果たすには、関連する各臨床領域や免疫学・感染症学・病理学等の基礎医学、加えて看護やリハビリテーション等の優れた力が必要なチーム医療なのです。この為、一級でかつ総合的な臨床力をもった施設が移植施設として社会から付託を受けることになります。つまり、この様な役割を求められたと言うことは、福岡大学の高い総合力が認められたという事でもあり、私たちは大いに胸を張って良いのだと思います。臓器移植医療センターは肺移植、腎移植、角膜移植と臓器提供を管轄する部門として、これら福岡大学の移植医療が医学的・倫理的に正しく実施され、益々発展するように力を尽したいと思っております。



循環器内科
准教授
杉原 充

この度、三浦伸一郎教授のご推挙により、2021年10月1日付けで福岡大学病院循環器内科の准教授を拝命いたしました。2001年に福岡大学医学部を卒業し、福岡大学医学部心臓・血管内科学講座に入局しました。朔啓二郎教授(福岡大学学長)、三浦伸一郎教授のご指導の下、心臓カテーテル治療を専門に従事してまいりました。高血圧、糖尿病、脂質異常などの生活習慣病を基盤とする動脈硬化性疾患の増加は、心臓のみならず、下肢閉塞性動脈硬化症、下肢虚血性潰瘍を顕著に増加させました。そこで、院内でのフットケアチームの構築、末梢動脈疾患に対するカテーテル治療を専門的に取り組んでいます。これからも自己研鑽を怠らず、臨床、研究、教育をしっかりと行い、地域医療に貢献できるよう努力してまいりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



産婦人科
准教授
宮田 康平

宮本新吾教授のご推挙により、2021年10月1日付けで福岡大学病院産婦人科准教授を拝命いたしました。2006年に福岡大学を卒業し、臨床研修の後、福岡大学医学部産婦人科に入局しました。2010年より国立成育医療研究センター研究所システム発生・再生医学研究部に国内留学、2015年より米国サンディエゴのScripps研究所に海外留学し、発生・筋分化・炎症・エピジェネティクスについての研究に従事しました。2018年に福岡大学へ復職後より、産科部門を挙げて行っている細菌感染に起因する早産の臨床研究に参加しております。細菌叢-ヒト間のシグナル伝達についての研究を立ち上げ、依然不明な陣痛発来メカニズムの解明に挑戦しております。加えて、人工知能(AI)を使用した胎児心拍陣痛図の診断補助装置の開発に取り組んでおり、"Diversity"なメンバーで研究を進めております。

切迫早産および早産の管理と産科救急は当院総合周産期母子医療センターの使命と考えており、診療・研究・教育にお役に立てましたら幸甚です。身の丈に合わぬ役を仰せつかり、甚だ恐縮ではございますが、今後とも皆様の御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



呼吸器・乳腺内分泌・小児外科
准教授
吉永 康熙

私は1988年(昭和63年)に福岡大学医学部を卒業、呼吸器外科に魅力を感じて旧第二外科に入局しました。関西医科大学外科、北九州小倉病院(現医療センター)麻酔科を研修したのち、大学院として旧福岡大学第一病理学教室に入学。菊池昌弘教授の取り計らいで築地の国立がんセンター病理部に任意研修として出向しまし

た。肺癌の外科病理学を学び、肺癌組織でのHGFについての研究を学位論文としました。1992年4月から2年間は愛知県がんセンターの胸部外科(肺、食道、乳房)で臨床修練を行い、この経験が乳癌診療を行うきっかけとなりました。旧第二外科は白日高歩教授のもと胸腔鏡手術が導入され、現病院長の岩崎昭憲先生の指導で肺気腫に対するVolume Reduction Surgery(VRS)を行いました。乳癌は秀島輝先生がボストンダナファーマー研究所に留学された後、専門領域としています。2000年には米国MDアンダーソン癌センターに短期研修に行き知見を広げる事が出来ました。内視鏡手術、センチネルリンパ節生検、術前化学療法、整容生を考慮した手術などを主な課題としてきました。若い世代の育成が、私の重要な役割と認識しています。



筑紫病院循環器内科
准教授

池 周而

この度、河村彰教授・病院長の御推挙を賜り2021年10月1日付で、福岡大学筑紫病院 循環器内科 准教授を拝命致しました。2001年に福岡大学医学部を卒業後、福岡大学病院内科学第二講座(現・心臓血管内科学講座)に入局、以後、福岡済生会病院、福岡白十字病院、福岡大学病院等にて心臓カテーテル治療と循環器領域の急性期、重症患者の管理を中心に診療を行って参りました。福岡大学病院在籍時には、湖啓二郎教授(現福岡大学長)、三浦伸一郎教授、白井和之准教授のご指導の下、心臓カテーテル治療とその治療成績に関与する数百の因子を抽出・数値化し、それをDatabaseとして蓄積、相対化する事で様々な論文発表、学会報告が行える事を学びました(このRegistryは現在も継続し、登録症例数は4,000症例を超えました)。臨床、研究共に充実した日々を過ごさせて頂いていたのですが、2020年4月より河村彰教授が福岡大学筑紫病院に就任される事となり、志願して異動して参りました。その後、現在の役職に至ります。私は、元々、筑紫病院の近隣である太宰府市の出身で小学校、中学校とも地域の公立学校を卒業致しました。従って筑紫病院の周辺は勝手知ったる場所です。地元という事もあり自分のスキルを活かして筑紫地区の医療に貢献したいという思いは人一倍強いと思います。若輩者では御座いますが筑紫病院がより一層、地域に愛され信頼される病院となる様に尽力して参りますので、今後ともご指導賜りますよう宜しくお願い致します。



消化器外科
講師

小島 大望

長谷川傑教授のご推挙により、令和3年10月1日付けで消化器外科講師を拝命いたしました。福岡市早良区出身で平成15年に福岡大学医学部を卒業し第1外科に入局しました。福岡大学病院、九州厚生年金病院(現JCHO九州病院)、糸島医師会病院、福岡徳洲会病院で外科研修を修了し、大学院ではマウス肝内痔島細胞移植モデルにおける自然免疫反応の解析で学位を取得しました。日本内視鏡外科学会技術認定(大腸)取得後は福岡大学病院、筑紫病院でももに大腸癌に対する腹腔鏡手術に従事してきました。現在は、ロボット支援直腸癌手術の習得に努めています。直腸癌手術は根治性を担保しつつ、排尿や性功能といった自律神経機能温存に配慮が必要です。手術支援ロボットは多関節機能を有し、うまく使え

ると従来の腹腔鏡手術より精緻な手術ができます。根治性、自律神経機能ともに良好な成績を期待してしまいましたが、いかなる結果にも真摯に向き合い、丁寧なご指導を積み重ねていく所存です。福岡大学では多くの先達にご指導をいただきました。今後は、安全で確実な腹腔鏡手術、ロボット支援手術の普及に尽力してまいります。かわらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



産婦人科
講師

深川 怜史

令和3年10月より、宮本新吾教授のご推挙により、福岡大学医学部産婦人科学教室の講師を拝命いたしました、深川 怜史(ふかがわ さとし)と申します。

私は平成21年に福岡大学医学部を卒業し、初期研修から福岡大学病院に勤務させて頂きました。そのまま福岡大学医学部産婦人科学教室に入局いたしました。実家は大牟田市で産科産科を営んでおり、漠然と久留米大学に入局するつもりでいましたが、宮本教授との出会いにより、私の人生は大きく変わりました。院外研修をふくめ後期研修終了後は大学院へ進学させて頂き、基礎研究を経て学位を取得させて頂きました。その後は臨床現場に戻り、総合産科センターで勤務しています。

私は高校の頃から、決して真面目とは言えず、高校受験失敗、浪人し大学生時代は留年するなど、とても優秀とは言えない学生時代を過ごしています。おそらくは福岡大学以外の産婦人科に入局していれば、専門医を取得後は実家を継承していたと思います。そんな自分が、学位取得やひいては講師まで就任させて頂けるなど夢にも思っていませんでした。それもひとえに、宮本教授をはじめ、私を指導していただいた多くの先生方のおかげに他なりません。この場をお借りして、御礼申し上げます。

今後は、後輩の先生や福岡大学病院に通う患者さんのために尽力し、これまでに受けたご恩をお返ししていきたいと思っております。今後とも、ご指導およびご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



小児科
講師

八ッ賀 秀一

時下ますますご隆昌のこととお慶び申し上げます。いつもながら格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。さて、私こと、2021年10月より福岡大学医学部小児科学講座の講師を拝命し、過日着任いたしました。2001年に宮崎医科大学を卒業し、久留米大学小児科で内分泌・代謝・臨床遺伝・ミトコンドリア病の臨床・研究・教育をしてまいりました。フィンランド・ヘルシンキ大学の留学で、基礎研究の面白さを実感できましたので、福岡大学でも臨床教室の基礎研究の面白さを伝えることができれば幸いです。人は宝であり、人とのつながりは無限です。「ダイバーシティ」「ユニバーサル」というワードを念頭に、幅広く柔軟な医療・医学を展開できるよう努力いたします。微力非才の身ではございますが、大任をお受けしたからには、誠心誠意、福岡大学発展のため職務に尽力いたす覚悟でございます。どうか今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご健康とますますのご活躍をお祈りいたします。

教室だより

Letter from a classroom



腎臓・膠原病内科学

腎臓内科部門では腎炎・ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎臓病（CKD）、水・電解質異常の診療を行っています。腎炎・ネフローゼ症候群については正確な病理診断に基づく基本に忠実な治療を行っています。循環器内科、内分泌・糖尿病内科と連携し、新規CKD関連薬の積極使用を通じてCKDの進行阻止を目指しています。それでも進行した場合の腎代替療法として血液透析、腹膜透析、腎移植の全てを行います。2018年に腎不全総合医療学（寄付講座）が開講、在宅血液透析を始めました。2019年には多職種からなる療法選択支援外来を開設し、腹膜透析が増加しました。生体腎移植希望者の術前評価も当科が担当しています。腎泌尿器外科と連携して適応決定、脱感作療法、拒絶反応や感染症への対応を行っています。膠原病診療も進歩し、バイオ製剤により関節リウマチは寛解を目指す時代です。全身性エリテマトーデスも新規免疫抑制薬により入院頻度の低下と予後の改善を認めています。近年、免疫チェックポイント阻害薬の使用頻度が増加し、多彩な膠原病様の合併症を認めます。これらの病態についても感染症内科や総合診療部と共に院内コンサルテーション体制の一翼を担っています。

教育について、卒前教育はM3腎泌尿器膠原病学、M5・M6臨床修練を担当しています。臨床実習においては担当患者に毎日会って学生カルテを記載、記載方法も丁寧に指導しています。診療の現場においては病棟医長-上級助手-若手助手あるいは他科の内科専攻医-初期研修医-学生という屋根瓦式の指導体制が確立しています。学生、初期研修医の教育は勿論、内科専門医・サブスペシャリティ学会専門医資格の取得に十分対応できる診療経験が出来ます。

当教室では臨床研究、疫学研究をベースに研究活動を行っています。2016年より長崎県壱岐病院に常勤医を派遣して地域のCKD診療体制を構築、衛生・公衆衛生学と共同で疫学研究を開始しました。特定健診データを用いて一般住民におけるCKD、高血圧、糖尿病の発症、CKD進行のリスク因子を探索しています。2019年には壱岐市・壱岐医師会と本学の間で医療に関する連携協定を締結しました。社会貢献と研究活動を目指す連携で、現在の講座の柱です。大学病院においては皮膚の最終糖化生成物、皮膚灌流圧、腸内細菌叢の評価など非侵襲的手法を用いて、合併症の発症や進行に及ぼす影響を研究しています。さらに、九州大学、総合診療部、微生物・免疫学、腎泌尿器外科と共同で腎移植患者を対象とする新型コロナワクチン接種後の免疫獲得状況に関する研究を開始しました。

当科の教室員は若く、診療・教育・研究の全てにおいてレベルアップが必要です。腎臓病は疾患と診療手技における専門性が高く、膠原病は不定な症状から診断に辿り着く総合診療の側面がありますが、全身を診る内科という点で共通しています。知識と技術と人格を磨き、患者や医療スタッフから信頼される医師を育てて参りたいと思います。



第48回 医学部慰霊祭



第四十八回福岡大学医学部解剖体慰霊祭は、本学教職員と学生代表が参列し、令和三年十月十六日（土）午後二時から福岡斎場において厳粛に執り行われました。新型コロナウイルス感染症感染予防の観点から、ご遺族並びにご来賓の方々にご列席いただくことができなかったことは誠に残念でございます。

今回祀られた霊位は、学生の医学教育の目的で、系統解剖のために献体された三十七柱、病院で死去されて病因究明のために病理解剖を御承諾頂いた二十一柱、合わせて五十八柱でした。

献灯献花の後、厳粛な雰囲気につつまれて慰霊祭は進行し、小玉正太医学部長は祭詞の中で、医学の発展のために欠くことのできない解剖にご献体頂いた霊位とご遺族、さらに、ご協力を頂いた各種関係機関に敬意と謝意を表されるとともに『私どもは、日々花を供え、香をたいて五十八柱の科学に対する貴きご献身を偲び、敬意と感謝の念を表していますが、本日、皆様方の崇高な御遺志を今一度思い起こして、今後益々、勉学、研究に励み、人類の幸福と福祉に貢献できますよう努力することをお誓い致します』と新たな誓いを披瀝しました。

教室だより
Letter from a classroom



小児科学

福岡大学医学会会員の皆様におかれましては日頃より診療・教育・研究部門で大変お世話になっております。小児科学講座のご紹介をさせていただきます。現在45名の医局員が在籍（学内24名、学外21名）し、福岡市及びその近郊の地域小児医療を担っています。新生児部門では、福岡県の周産期医療対策事業の中心的医療施設として機能しています。NICU 15床、GCU 18床の計33床で運営しており、医師8名、看護師61名で診療を行っています。例年300例前後の入院があり、出生体重1,500g未満の極・超低出生体重児が45～60例を占めています。早産児の管理を主体としつつ、小児外科、眼科、脳神経外科、形成外科などの協力のもと外科疾患の周術期管理も行っています。外来・病棟部門では、新生児期から思春期・成人に至るまでの患者さんにおけるプライマリーケアに対応する一般診療と先進医療に対応する専門診療（神経/発達心理/循環器/感染症/内分泌・代謝遺伝/腎臓/呼吸器・アレルギー部門）があり、地域から幅広くご紹介いただいております。年間15,000名の外来患者と1,400名の入院患者の受入れを行っております。また児童虐待防止医療ネットワーク事業の福岡市唯一の拠点病院として、また子どものこころ専門医機構の研修施設として指定を受けています。今般の小児医療は少子化および予防接種普及による小児感染性疾患の激減により、小児医療提供体制の変革が求められていた中、世界的パンデミックとなったCOVID-19の影響にて小児医療の在り方はさらなるパラダイムシフトを求められました。2018年に成立した成育基本法の理念に則り、今後は妊娠期から成人期まで成育過程にある者に切れ目なく成育医療を提供していくことを目指しています。

研究部門も診療部門と同じ幅広く、主任教授は厚労科研研究班班長として（健やか次世代成育総合研究事業）「身体的・精神的・社会的



(biopsychosocial)に乳幼児・学童・思春期の健やかな成長・発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための社会実装化研究」と、AMED研究代表者として（成育疾患克服等総合研究事業）「ICTと医療・健康・生活情報を活用した「次世代型子ども医療支援システム」の構築に関する研究」を担当しています。その他、医局員・大学院生が「ヒトウレアプラズマと男性不妊の関連」、「ES細胞を用いた卵子形成過程の再構築培養」、「幹細胞を用いた組織再生を視野に、再生ステロイド産生細胞の分化効率をあげる因子の探索」、「食物アレルギーにおける原因アレルゲンの多角的分析」「ミトコンドリア病の新規バイオマーカーの研究」などに取り組んでいます。

小児科は特定の臓器に特化した診療科ではなく、子どもの総合医としてすべての臓器に関わる診療に携わるため、医学生からも人気のある診療科です。医療面接/診療技術/家族支援と様々な側面から医学教育にも携わっていきたいと思います。

今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



学位取得

次の方は、福岡大学より博士（医学）を授与されました。

課程修了による
学位取得者
[令和3年9月13日]

- ・山田 英明(病態機能系専攻)
- ・清島 千尋(先端医療科学系専攻)

論文提出による
学位取得者
[令和3年10月7日]

- ・石橋 英樹(消化器内科学 講師第4条7号)
- ・井上(岩下) 寛子(西新病院循環器 講師第4条7号)
- ・森 遼(南折立病院)